

手づくり郷土賞グランプリ2016の開催結果①

手づくり郷土賞グランプリ2016では、平成28年度手づくり郷土賞を受賞した全22団体からプレゼンテーションいただき、手づくり郷土賞選定委員会の選考により、大賞部門、一般部門それぞれのグランプリを決定しました。

また、グランプリのほか、会場参加者の投票により、ベストプレゼン賞も決定しました。

このほか、昭和女子大学の学生から、大学と地域の連携した取り組みを発表いただきました。

〔概要〕

- 日時 平成29年1月22日(日)10時00分～15時00分
場所 昭和女子大学 コスモスホール
(東京都世田谷区太子堂 1-7-57 80年館西棟6階)
内容 1) 選定団体による活動プレゼンテーション(22団体)
2) 昭和女子大学による活動発表
3) グランプリ(一般部門、大賞部門)の発表、講評
参加者 約180人(参加団体、一般参加者等)

〔平成28年度手づくり郷土賞選定委員会〕

委員長	齋藤 潮	東京工業大学環境・社会理工学院 教授
委員	荻原 礼子	結 まちづくり計画室 代表
委員	鈴木 伸治	横浜市立大学国際総合科学部 教授
委員	田中 里沙	事業構想大学院大学 学長
委員	関 幸子	株式会社ローカルファースト研究所 代表取締役
委員	平野 龍平	富士急行株式会社 交通事業部 兼 グループ事業部 プランナー
委員	藤田 耕三	国土交通省総合政策局長

齋藤委員長による開会挨拶



グランプリの様子



手づくり郷土賞グランプリ2016の開催結果②

受賞団体からの感想



■グランプリ2016(大賞部門) 門司港レトロ倶楽部／北九州市

良いまちには安心安全が大切。3年後のオリンピックのためにも落書きが無いまちを作る秘訣をもっと伝えていきたい。



■グランプリ2016(一般部門) 天下一ひむか桜の会／延岡市

昨年から応援してくれる人が増えてきて可能性を感じている。賞を貰うことで活動を後押しされるので、今後も故郷の憩いの場づくりを頑張りたい。



■グランプリ2016(一般部門)

認定 NPO法人 桜ライン311／陸前高田市
最終ゴールの1万7千本の桜の植樹には、まだこれから20、30年かかるが、全国の皆さんと一緒に頑張りたい。



■ベストプレゼン賞2016 栃木県立足利清風高等学校／足利市

活動を通して多くの経験をさせてもらった。私達3年生は活動が終わってしまうが、後輩に引き継いでいく。是非、足利に遊びに来てください！

手づくり郷土賞選定委員の講評



齋藤委員長

普通、何か想いがあっても、それを口に出しても相手にしてもらえないことが怖い。受賞活動の多くは、誰かが何かを言い出し、賛同されることから始まり、輪が広がっている。これを十年以上も継続するという信頼関係は晴らしい財産。大切にして活動を続けていって欲しい。



田中委員

地域資源は人の手を介さないと光らない。みなさんの活動により新たな価値が生み出された。日常では褒められることはあまりなくても、真摯に取り組みを継続することで、仲間ができ、気持ちの輪が広がるのだと感じた。是非、大賞を目指して活動を続けていって欲しい。



荻原委員

地域創生は住む人が自分の街をマイナスからプラスに良くしていこうという気持ちから始まる。活動されている方はご高齢の方も多かったが、生き生きしており、元気な日本を作っていく秘訣だと感じた。また、若い人の志向で地元のパワーを巻き込んでいる事例もあり、すごく可能性を感じた。



平野委員

どの活動が良い悪いではなく、すべてが尊く素晴らしかった。自分の郷土を良くしようと活動していることこそが素晴らしいこと。せっかくの縁なので、是非、お互いに繋がってもらい、活動を遠くに広げてほしい。まだまだ日本も捨てたもんじゃないと思った。



鈴木委員

「思いが伝わる、繋がる、広がっていく」過程を3分間に凝縮してもらった。中身はもちろん、プレゼン方法・伝え方にもそれぞれ個性があった。多様なまちづくりがあることに感心するとともに、未来に向けての希望を感じた。



藤田委員

地域活動の多様性を改めて感じた。発表時間が3分と短く申し訳なかったが、限られた時間のなかで想いの伝わるプレゼンだった。「手づくり郷土賞」が皆さんにとって、よりよい表彰制度になるように努めてまいります。

参加団体によるプレゼンテーション



昭和女子大学の活動発表



記念集合写真



【参考】受賞団体の活動概要

グランプリ2016 (大賞部門) : 門司港レトロ倶楽部 / 北九州市

歴史と海峡を活かしたまちづくり ～門司港レトロ～

取り壊しの危機にあった門司港駅等の歴史的建造物の保存運動を契機に、それらを活用した観光振興と地域活性化のため、平成7年に「門司港レトロ倶楽部」を設立した。現在は34団体が加入する活動に発展し、観光地づくりとまちづくりの両輪で活動を継続している。三宜楼や旧大連航路上屋等の新たな歴史的建造物の活用をはじめ、県境・海峡を越えた関門連携によるまちづくりや「まちあるき」等の年間300件以上の多様なイベントを企画・推進し、北九州市を「観光の街」へとイメージ転換させ、県内屈指の観光スポットに定着させた。

まちあるき「門司港めぐり」



門司海峡フェスタ



グランプリ2016 (一般部門) : 認定 NPO法人桜ライン311 / 陸前高田市

桜ライン311 ～未来へのまちづくり～

陸前高田市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により壊滅的な被害を受けた。その記憶を風化させないため、同年10月に「NPO法人桜ライン311」を発足。発足以降、春と秋の年2回、市内の約170kmに渡る津波到達ラインに桜を植樹する活動を行い、これまで212箇所1,020本を植樹した。また小中学校を中心に、後世の人々に津波の恐れがあるときには桜並木より上に避難するよう伝承活動をしている。活動を通じて地域の避難行動の重要性や防災意識の向上に貢献している。

一般参加者の植樹作業



最初の植樹地の浄土寺



グランプリ2016 (一般部門) : 天下一ひむか桜の会 / 延岡市

ふるさとへの熱い思いが奇跡の堤防を産んだ

人口減少等で賑わいを失いかけてた延岡市に、「故郷に恩返しをしたい」との思いから「天下一ひむか桜の会」を発足した。平成21年から五ヶ瀬川堤防に河津桜300本と菜の花を植え、7年間、毎年250日、地道に維持管理を継続し、7,000人の市民等が参加する活動に発展した。今では「延岡花物語」(祭)の主会場となり、35,000人の観光客が訪れる一大イベントになった。また、より多くの市民参加を促す仕組みづくりや新たなプロジェクトにも取り組み、通年で花を楽しめる河川空間づくりを行っている。

第1回の河津桜植樹



延岡花物語



ベストプレゼン賞2016: 栃木県立足利清風高等学校 / 足利市

足利の魅力再発見！～高校生のロケツアーリズム～

「映像のまち構想」を掲げている足利市では、市内のいたる所でロケが行われている。当高校のビジネス研究部では、観光客として取り込み切れていなかった若年層への誘客を図るため、「ロケ地」という新たなツールを活用し、観光ガイドマップ(あし恋MAP)作りを行った。高校生が自ら企画・取材・作成を行っており、あし恋MAPを作成するにあたっては、市内県立高5校約600名にアンケートも行っている。また、マップに基づいたロケ地めぐりツアーを開催し、高校生自身が観光ガイドにも挑戦している。マップを持って観光客が足利市を訪れたり、メディアに取り上げられるなど、足利市の魅力を市の内外に発信し、地域の活性化に貢献している。

ロケ地での競技かるた大会



高校生が観光ガイドをするツアー

